

1.4 招待講演

招待講演

PET による臨床脳循環研究の重要性－岩手から世界へのエビデンスの発信－

小笠原邦昭 岩手医科大学脳神経外科

現在、本邦における PET 保有施設は 135 ヶ所にのぼる。しかし、その多くは全身の微小癌を検索する目的の FDG-PET/CT であり、O-15 を用いた脳循環代謝測定を行っている施設は全国で 10 ヶ所程度である。脳循環代謝測定を行う臨床的意義は「脳主幹動脈慢性閉塞症における脳虚血症状再発の予知とバイパス術の適応決定」、「頸部頸動脈狭窄症に対する血行再建術（内膜剥離術・ステント）の脳合併症の予知」、「脳主幹動脈閉塞狭窄性病変をもつ症例における開心術中の脳梗塞合併症出現の予知」にある。PET は臨床において、最も正確に脳循環代謝を測定することができ、上記の臨床意義を次々と明らかにしてきた。一方、PET は汎用性がないことも事実である。最近、最も汎用性のある MRI を用いて脳循環代謝を測定する方法が開発されているが、これらの精度評価のための gold standard は PET である。われわれは仁科記念サイクロترونセンターの PET を用い、これらの臨床的意義及び MRI による脳循環代謝測定法の精度をエビデンスとして世界に発信してきた。今後とも PET における gold standard の役割は褪せることなく、未来においても必要不可欠な測定法である。